

## 海づくりメッセージ

県内の漁業者・環境保全活動者が登壇し、豊かな海を次世代へ引き継いでいく決意を力強く宣言しました。



山田 和幸・あゆみ夫妻  
大分県漁業協同組合  
青年部長

山田和幸: 私たちがつなぐバトンは「豊かな海と漁師の誇り」です。

私は30歳の節目に漁師になろうと決め、妻と豊前海をのぞむ宇佐市に戻りました。4代目の漁師として家業の底びき網漁を中心に生計を立てています。

漁師という仕事は一言でいうと「かっこいい」んです。自然を読み、自然に耐えながら、海と向き合います。自然を相手に素の自分で立ち向かうことは、漁師の誇りといえます。一攫千金とはなかなかいきませんが、大漁の日は家族で喜びを分かち合います。

山田あゆみ: 夫が漁師になったことをきっかけに地元の水産会社で働き始めました。水産業に関わるのは初めてのことでしたが、取り巻く環境が、年々厳しさを増していると感じます。豊かな海を残していかなければならないと実感するようになりました。

山田和幸: そのためには一方的に奪うのではなく、海の恵みをもたらしたら、海が喜ぶものを返すことが必要です。青年部の仲間と、資源の保護や漁場環境のためにできることを、より積極的に取り組んでいきます。

私たちには3人の子供がいます。豊かな海で誇りを持って働く漁師が次世代にも続くよう、これからも夫婦で、そして仲間と力を合わせていきます。



山田 博一  
大分県水産養殖協議会  
青年部会副会長

私がつなぐバトンは「未来にわたって続くブリ養殖」です。私はブリ養殖を行う漁師の3代目として佐伯市で育ちました。家族や地域で培った養殖技術で、ブリの品質は誰にも負けないという自負があります。

しかし飼料価格の高騰や海水温の上昇など、ブリ養殖を取り巻く環境は年々厳しいものになっています。

そんな中でも私が養殖を営む入津湾では、各漁師がエサの配合などに工夫を凝らしたり、ブランドブリの開発をしたりと、高品質なブリの生産に切磋琢磨しています。協力しながらも互いに競い合うことで、地域全体でブリの養殖技術が日々向上している実感があります。

自慢のブリを国内はもちろん、海外の消費者にも届けたいと思っています。これからも多様化する消費者のニーズや環境の変化に対応しながら、入津湾の養殖業を未来につなげていきます。



足利 慶聖  
特定非営利活動法人  
水辺に遊ぶ会理事長

私がつなぐバトンは「豊かな自然を未来に」です。  
私は中津市を中心にNPO法人「水辺に遊ぶ会」で25年間活動してきました。  
会のスローガンは「生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟を100年後も…」。

干潟の生きもの観察会や、漁師さんとともに行う漁業体験など、地域の人に海に親しんでもらうための取組を行っています。ほんの数十年前まで、人の生活と海は密着していました。ここにお集まりの皆さんも感じていると思いますが、今では海に足を運ぶこともなくなり、海のことを考えることもなくなりました。私は会の活動を通じて、もう一度、海と人との心の距離を近づけたいと思っています。

世界の湿地を保全するラムサール条約では、干潟を上手に活用しながら、人が豊かに暮らすことが謳われています。

市民の皆さんと協力しながら中津干潟をラムサール条約に登録し、豊かな海と人の暮らしを100年先までつなぐことが、私の目標です。



末廣 奈津子  
大分県漁業協同組合  
女性部くにさき支部長

私がつなぐバトンは「魚を楽しむ食卓」です。  
私は国東で漁師として夫と一緒にタコやサワラ漁をしています。けれども漁一本で生計を立てていくことが年々難しくなってきたと感じています。

そんな状況を打破するには、まずは魚に興味を持ってもらうことが必要だと考えています。

皆さん、美味しいタコの茹で方を知っていますか？私はタコの茹で方なら誰にも負けなくらい研究を重ねてきました。お魚料理教室や販売イベントを通して、そんな魚の美味しさや命がけでとる漁業の大変さを伝え、魚の価値を知ってもらうことで消費の拡大につなげたいと思っています。

また、実際に消費者と触れ合うことで美味しい魚へのニーズがあることも実感しました。

魚食普及に取り組むことが、厳しい環境を生き抜くために私が出した1つの答えです。

私には3人の息子がいます。将来の選択肢に「漁師」という職業を加えてもらえるよう、自分ができることにこれからも取り組んでいきます。

## 誓いのことば「つなぐバトン 豊かな海を 次世代へ」





# 式典行事

## 大会決議

四方を海に囲まれた日本は、古より津々浦々からもたらされる海の幸を享受し、世界に誇る魚食文化を築いてきた。

ここ大分県は、北は瀬戸内海、南は豊後水道に面し、広大な干潟やリアス海岸からなる豊かな漁場で育まれた多種多様な魚介類を生産するとともに、全国に先駆けてブランド魚を展開するなど、地域の特性を活かして水産業を発展させてきた。

私たち水産関係者は、近年の急激な海洋環境の変化に対応しつつ、資源管理や藻場・干潟の保全等環境回復の取組を通じて、水産食料の安定供給の役割を果たす責務がある。

本年は、全国豊かな海づくり大会発祥の地であるここ大分県において、「つなぐ バトン 豊かな海を 次世代へ」を合言葉に、つくり育てる漁業に一層取り組むとともに、森・川・海のつながりの重要性を再認識し、決意を新たに豊穰の海を次世代に引き継いでいくことを、ここに決議する。



豊かな海づくり大会  
推進委員会会長  
全国漁業協同組合連合会  
代表理事会長  
坂本 雅信

## 大会旗引継ぎ

佐藤樹一郎大分県知事から一見勝之三重県知事に大会旗を引き継ぎました。



## 次期開催県あいさつ

本日、天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、第43回全国豊かな海づくり大会大分大会が盛大に開催されましたことを、心からお喜び申し上げます。

次回の開催県となる三重県は、南北1千キロを超える全国第8位の海岸線を有し、多種多様な水産業が営まれ、資源管理や栽培漁業、藻場・干潟の再生等の活動も盛んです。

三重県民の宝である水産資源を守り育て、豊かな海を次の世代に継承していくため、「受け継ごう 命あふれる 清い海」を大会テーマとして、その思いを全国に発信してまいります。

伊勢神宮が鎮座まします三重の地は、日本最古の歴史書、日本書紀において、「美し国」、すなわち、海・山の食材に恵まれた自然豊かで美しい地域とされ、古くから東海道や熊野、伊勢の諸街道を通じ、人、物、情報の交流が盛んに行われてきました。

来年の美し国みえ大会には、ぜひ多くの皆様にお越しいただき、伊勢えび、あわび、伊勢まだい、伊勢茶や松阪牛などの豊かな食と、多彩な歴史や文化の魅力を楽しんでいただきたいと思います。

結びに、天皇皇后両陛下の弥栄を心からお祈り申し上げますとともに、御列席の皆様の御多幸を祈念いたしまして、挨拶といたします。



三重県知事  
一見 勝之

# 式典行事

## 閉会のことば

嶋幸一大分県議会議長の「閉会のことば」で式典が終了しました。



大分県議会議長  
嶋 幸一

## 表彰式

式典終了後、尾野賢治大分県副知事から功績団体表彰受賞者と作品コンクール受賞者へ賞状の授与を行いました。



## あいさつ

本日は、県内外からこのように多くの方々に、式典行事にご参加をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、ただいま功績団体並びに作品コンクールの各賞を受賞された皆様、誠におめでとうございます。皆様方の今後一層のご活躍を心から願っております。

さて、式典行事もあとはエピローグを残すのみとなりました。午後からは、別府市の別府港第4埠頭におきまして、海上歓迎・放流行事を開催することにしております。約50隻の漁船による海上パレードを実施するとともに、第1回大会の開催地である佐伯会場と中継を行い、マコガレイとマダイの稚魚を2会場で同時に放流します。

また、ここ大分市の大分駅周辺では、本県の豊かな海で育った魚を食べていただくことや貝殻を使った工作体験など、楽しみながら学んでいただく関連行事を開催しております。海上歓迎・放流行事の模様もスクリーンでご覧いただけますので、お急ぎでない方はお寄りいただけたらと思います。

結びに、本大会の開催にあたりまして、お力添え、ご尽力を賜りました関係者の皆様にご心から厚くお礼を申し上げますとともに、本日で列席の皆様方のご多幸を祈念申し上げます。私からのあいさつといたします。本日は誠にありがとうございました。



大分県副知事  
尾野 賢治



# 式典行事

## エピローグ

全国の参加者に向けたエールの気持ちを込めた歌と踊りを披露しました。



「関の鯛つり唄」…大分市佐賀関に伝わる江戸時代から漁師の間で歌い継がれた唄  
関の鯛つり唄・おどり保存会／大分市立佐賀関中学校／貴美千佳の会



「瑠璃色の地球」合唱 津久見樫の実青少年女合唱団

ファイナーレでは、ナビゲーター、式典補助員・介添えを務めた大分県立大分西高等学校、旗手団を務めた大分県立海洋科学高等学校の皆さんが再び登場し、盛大な拍手の中、閉幕しました。





# 式典行事

## おもてなしコーナー

会場において大分銘菓、ドリンクの配布や、大分の海・水産業を紹介するパネル展示等を行い参加者の皆様をおもてなししました。また、つなぐバトンプロジェクト(P.60)で制作したアート作品なども展示し、参加者の皆様楽しんでいただきました。





# 式典行事

## 出演者紹介

### ナビゲーター



#### KEIKO & マーク・パンサー (globe)

【KEIKO】  
臼杵市出身。音楽グループglobeのボーカルとして活動。2023年1月より地元大分でのラジオ番組を通じて活動を再開。実家は「大分県臼杵市にある老舗料亭『山田屋』」。

【マーク・パンサー】  
父はフランス人、母は日本人のハーフ。2歳からモデル活動を開始。音楽グループglobe、DJ、ラジオ番組のレギュラー出演にとどまらず、大学の客員教授として文化活動にも尽力。2021年には別府市の「観光大使」に、2023年には日出町の「観光親善大使」に、2024年に佐伯市の「さいき応援大使」に就任。アパレル事業にも携わっている。

### 司会



#### 小笠原 正典

TOSテレビ大分アナウンサー



#### 田中 愛佳

TOSテレビ大分アナウンサー

### 作文コンクール最優秀作文発表



#### 中園 瑛斗

大分市立大道小学校 2年



## 稚魚等のお受け者



#### 神崎 隆実

大分県漁業協同組合  
鶴見地区漁業副運営委員長



#### 近乗 美信

大分県漁業協同組合  
東国東地区漁業運営委員長 会長



#### 三木 節夫

大分県漁業協同組合  
保戸島地区漁業運営委員長



#### 田中 浩二

大分県漁業協同組合  
中津地区漁業運営委員長

## 海づくりメッセージ発表者



#### 山田 和幸・あゆみ

大分県漁業協同組合  
青年部長



#### 山田 博一

大分県水産養殖協議会  
青年部会副会長



#### 足利 慶聖

特定非営利活動法人  
水辺に遊ぶ会理事長



#### 末廣 奈津子

大分県漁業協同組合  
女性部くにさき支部長

# 式典行事

## プロローグ出演者



私立大分東明高等学校バントワリング部



大分県立由布高等学校郷土芸能部

## 式典補助員・介添え



大分県立大分西高等学校

## 式典音楽隊



iiichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ

## 大会旗入場(鼓笛隊)



私立千代町幼稚園

## 大会旗入場(旗手団)



大分県立海洋科学高等学校

## エピローグ出演者



関の鯛つり唄・おどり保存会  
大分市立佐賀関中学校  
貴美千佳の会



津久見樫の実少年少女合唱団